

武蔵野市これからの地域コミュニティ検討委員会  
第10回 議事要旨

日時 平成26年9月16日(火)午後6時30分～  
場所 かたらいの道市民スペース 会議室

1. 開会

2. 議事

(1) 第9回議事録の確認

■委員長

- ・前回議事録について気がついた点があれば、この後1週間を目処にご連絡いただきたい。
- ・本日は議題が多いため議事ごとに議論すべきバランスに配慮して進めたい。
- ・中間提言修正案についてはご確認いただき、ご意見があればお願いするということにしたい。また、中間提言に対する意見と委員会の対応についても事前にお示ししてあるので、簡単な確認に留め、議事(4)を中心として進めたいと思う。

(2) 中間提言修正案について

■事務局

(資料説明)

■委員長

- ・新しいコミュニティをどう呼ぶかは頭を悩ませた点であるが、ちょうど「これからの地域コミュニティ」という言葉があったためそれを活用することにした。

■委員

- ・「これからのコミュニティ」という表現が唐突に出てきたため、違和感がある。

■副委員長

- ・私の発案でそうだったが、より適切な表現があるのなら変更しても良いと思っている。従来の「地域コミュニティ」と区別するために「これからのコミュニティ」という言葉を使っているが、それが最適かという点で悩ましいので、ご意見があればぜひいただきたいと思う。

■委員

- ・7ページや9ページ、④の2段落目に記載があるが、行政が「対等な立場で議論に参加し、協働していく」という表現について、これまで行政は関与しないという立場であったものからすると、個人的には賛成だが不安を感じる人も多いのではないかと懸念している。

■委員長

- ・これまでの「自主三原則」は、地域での関係づくりに行政が口を出すのは良くないということであるが、地域全体での課題解決となると、むしろ行政が最終的に責任を負うこととなる。行政サービスとして提供されるものもあれば、市民に委託して実施するもの、あるいは行政と市民が協働で取り組むものもあるだろう。行政も含めて課題解決をして

いくことを前提とすると、行政と他の団体がどのように関わるかという課題が出てくるのではないか。

■委員

- ・「地域コミュニティ」のままであれば良いが、「これからのコミュニティ」となったときに、自主三原則を念頭に置いたままこの文章を読むと誤解を招くのではないかということだけが気にかかる。

■副委員長

- ・様々な課題解決のパターンがあると思うが、課題を共有するということから、課題を解決するという段階では何らかの手段が必要であり、そこまでその内容を記載すべきかという問題だろう。課題解決の方法はいろいろあり得ると思うが、地域フォーラムは課題共有を中心に議論してきた。その中で「協働」という言葉が入ることで、課題解決の手段が特定されてしまうことは危惧される。

■委員長

- ・今回の提言では、原則として課題共有までしか触れていない。このため、あえて「協働」という表現を入れない方が良いのかもしれない。

■委員

- ・パートナーシップとしては協働というのはあっても良いのかと思うが。

■委員長

- ・課題解決に動き出すよりは、課題を共通認識とするためどうするかを考えるという提言であるので、あえて踏み込まなくても良いように思う。

■委員

- ・7ページの「協議の場」に対する意見として、「検討の場」を「検討の会場」に変更する（パブコメ 61 番）という意見があるが、どのように対応するのだろうか。

■事務局

- ・コミュニティセンターを会場とするとして、8ページで対応している。

■委員

- ・3ページにコミュニティの定義が書かれているが、様々な定義のあとに「これからのコミュニティ」が書かれると弱いのではないか。前に持ってきて、明確にした方が良いのではないか。

■委員長

- ・ご指摘の通り、様々に重ねて修正を加えてきたものであるので、今一度見直す必要がある。確かに前に持ってきた方が良いと思うので、その点は修正したい。

(3) 中間提言に対する意見と委員会の対応について

■事務局

(資料2の説明)

■委員長

- ・これをいつの時点で公表するかについて補足していただきたい。
- ・また、修正対応箇所を具体的なページ数での表現としたものはリストから削除したという理解で良いか。

#### ■事務局

- ・パブコメは6月に行われており、その後どうなっているかの問い合わせもいただいているところであるので、今日の委員会を経た段階で一度公表する。その後網掛けの部分については、最終提言が確定した段階で取りまとめ、最終提言書の資料として扱うこととしたいと考えている。
- ・修正対応の具体的な記述については削除している。

#### ■委員

- ・検討が難しい意見もあると思うが、ほとんどの指摘が修正対応済みと理解して良いか。

#### ■事務局

- ・その通りである。「今後の参考とする」としているものについては対応していない。

#### ■副委員長

- ・パブコメの意見について、どういう重み付けで反映しているのかがわかりにくい。どういった基準で採用・不採用を判断しているのだろうか。

#### ■事務局

- ・パブリックコメントについてはフラットにとっている。
- ・このほか、市民説明会では、ワークショップの結果として、グループごとにまとめられた意見を中心に整理しており、このほか職員の意見も取り入れている。

#### ■委員長

- ・基本的にはフラットに幅広く入れ込んでいるということだろう。
- ・パブコメとしては非常に的を射た内容が多く、他の自治体ではそうは見られない。
- ・本委員会後早々に公開ということであるので、万が一何かあればなるべく早く事務局宛ご連絡いただきたい。

#### (4) 検討課題の整理による論点について

#### (5) 答申に反映させる内容について

#### ■事務局

##### (資料3の説明)

#### ■委員長

- ・いくつか論点があるので、内容を分けて議論を進めたいと思う。
- ・まず、「1. コミュニティ協議会への新たな参加者の確保や人材育成について」議論したい。
- ・①については、一律そうすればいいというものでもなく、各協議会の実情にあわせてそうしたことを考えていくということを行うか行わないかという判断になる。それが当然と受け取られてしまうのは良くないため、例えば「目的別の団体参加者を入れていくことも1つである」程度の表現ではどうか。

#### ■副委員長

- ・各団体参加者が積極的にコミュニティづくりに関わるという意識を醸成していくという方向の書きぶりで良いのではないだろうか。

#### ■委員長

- ・提言の中では、「6. 」に付加していくことになるだろう。

- ・①については目的別の活動団体からも、地域での関係づくりに何らかに関わるのが望ましいということ、委員会として提言として良いのではないかと思う。一方、「当て職をすべき」とまでは踏み込まない方が良いと思う。

#### ■副委員長

- ・当て職を既に実施している協議会もあるが、自主的な参加者との間での意識差など、問題が出てきており、役割を認識した上で自主的かつ積極的に関わってもらいたいという方が望ましいだろう。

#### ■委員

- ・自分自身の経験でもあるが、各団体と意見交換することで互いに協調し合うようになる。フォーラムで各団体と意見の交流が進んでいけば、フォーラムを通じて課題解決も進むのではないかと。

#### ■事務局

- ・コミセンによってはPTAが入ることがルールのようにもなっているところもあり、高齢化・固定化の課題解決のための手段として整理してはどうか。

#### ■副委員長

- ・桜堤ではPTAの役員経験者が自動的に協力員になるような仕組みを作っており、協力員が増えつつある。その中で若い人が運営委員を担うという形が育ってきている。若い人主導で何かを進める中で、自らその良さや楽しさが見つかるとう主体性が生まれ、新たな流れになると期待している。

#### ■委員長

- ・③について、青少協とのつながりは以前からあったが、幼稚園も含めた検討を提案されていた委員を待ちたい。

#### ■副委員長

- ・女性の社会進出が言われているが、家庭の問題や子供の問題等もあり、青少協からの人的参加が少なくなっていると感じる。

#### ■委員

- ・個人的にも青少協に関わってきたが、かなり人材が少なくなっている印象である。けやきコミセンでは個人がそれぞれのネットワークの中で人材を見つけ、運営委員に個別に引き込んでいる状況があり、若い母親世代の運営委員が多い。ポイントは、上下関係を作らず、やる気をそがずにやりたいことをやってもらうことである。アンテナを張り巡らせ、担い手を発掘していくことが重要である。

#### ■委員長

- ・PTAのあり方自体が変わってきたのだろうか。

#### ■副委員長

- ・若い世代は積極的な人は積極的であるが、口出しされることを嫌う傾向がある。これまでは手伝ってもらいたいというスタンスであったが、最近では出店ブースを一任する形式としたところ、参加が増え、変化を感じている。

#### ■委員長

- ・PTAの母親が活躍できる場を作っていくことが求められているということだろうか。

#### ■副委員長

- ・活動の場作りは非常に重要である。地域の人がこれまでの経験を生かせる場があることが、生き甲斐づくりの1つになっているのだろう。その受け皿としてのコミセンの役割の重要性を感じている。
- ・②について、定年制を実施しても新しい人が入ってくるということにはならない。各コミセンでは委員長が最長3年程度で新しい人によって変わってもらうよう固定化しない工夫をしている。内側からの視点と、外側からの視点の違いを感じる。

#### ■委員

- ・①についても同様だろう。委員のご指摘にもあったが、団体から来てもらっても、思いがなく続かないため、期待できないと思っている。表現は緩やかにする必要がありと思う。

#### ■委員長

- ・コミュニティ協議会とは別の団体がコミュニティ協議会の中に活躍する場を持てるかどうかだろう。提言としては、学校や様々な団体が、コミュニティ協議会の中で活躍できるような工夫をしていくことを強調する方が良いと思う。
- ・一方、集合住宅については無理矢理にでも連絡役としてきてもらうことを試みるのも1つの手だと思う。

#### ■委員

- ・ご指摘の点はその通りだと思うが、100戸近い大型マンションでなければ人材的に厳しい。

#### ■委員長

- ・100戸以上の大型マンションに限定するなど、規模の問題には留意しつつ、100戸以上マンションについては、連絡役としての役割を与え、参加してもらう工夫をした方が良いということは提言したい。

#### ■委員

- ・南町では、福祉の会とコミセンで「地域マンション交流会」を実施している。様々なテーマで実施しているが、なかでも最大の関心事が「防災」で、非常に多くの方に参加してもらった。何かしらの切り口があれば集まってもらえるだろうと思う。

#### ■委員

- ・③について、地域として協力してほしいということだけではなく、コミセンも地域の大人として子どもや子育て世代を応援していますよ、というメッセージを自ら伝えていくことが大切だと思う。地域の人や運営側の説明を助けるパンフレットや、絵本のようなものを作成してはどうだろうか。例えば、コミセン親子広場や学校でそれを使って説明するなどしていくと自然とつながりもできるのではないだろうか。南町コミセンだったと思うが、窓口の子育て世代の母親を入れたことで子どもたちへの声かけがスムーズになり、活気が出たというニュースがあったがそういうことも重要ではないか。

#### ■委員長

- ・引き続き「2. コミュニティセンターの機能と管理・運営のあり方について」を検討したい。
- ・コミセンに多様な人が立ち寄りやすくなるための工夫としてどのようなことがあるだろうか。まずは、コミセンですでに実施されている工夫等について紹介していただきたい。

良い事例かはわからないが、福祉の会がコミセンに場所を借りているといった話題もあったかと思う。

■副委員長

- ・非常に大きな問題でもある。団体ごとに活動拠点に対するニーズや要望はあると思う。それが地域の中で共有されていないことが大きな問題である。コミセンだけが居場所があるかのように指摘されるが、この問題について話し合い、困っていることを共有することから始めることが重要であると思う。活動拠点をコミセンに設けるべきと提言するのではなく、そうした話し合いの場を持つことの重要性を提言すべきではないか。

■委員長

- ・現状でも、活動や発表の場としてのコミセンの活用はだいぶ定着しているように思う。

■委員

- ・新たにできた八幡町はきれいだが、余分なスペースがない。そうした団体に何かしてあげたいと思ってもできないことも多く、そうしたことを前提とするなら、コミセンを設計する段階から検討しておく必要がある。関前には物置もあり、倉庫のような場所のニーズも多い。
- ・また、初めてコミセンに足を踏み入れるときには気後れを感じる。より気軽に立ち寄りやすくするために、行政サービス機能を置くことは重要であると思う。

■委員

- ・部屋の貸し出しについても、総会や大規模イベントについては、申し出があれば優先的な利用を認めている。

■副委員長

- ・市の広報誌等はロビー等に設置しているが、そのこと自体を知らない人も多く、広く広報していくことが重要だろう。

■委員

- ・コミセンに広報誌が設置してあることの周知こそ、市とタイアップして丁寧に実施していくことが重要である。

■委員

- ・行政との関わりに関する話題と知っている。有害ごみ廃棄の際に赤い袋を使用するが、その袋をコミセンにも置いていることはコミセンをよく利用する人でも知らないことが多い。こうしたちょっとしたことをきっかけにすることが重要だと思う。

■委員長

- ・これまでは行政が積極的に関わることを避けてきた経緯がある。その点について行政としてはどうか。コミセンとの連携が実現できれば、依頼したいことはあるのだろうか。

■事務局

- ・広報誌はあふれるほどあり、むしろ限定する必要があると感じている。
- ・有害ごみ廃棄用の袋についても、設置してもらえたら設置してもらいたいが、それを担ってもらえるかどうかはコミセンによるという認識でおり、踏み込めないでいた。

■委員

- ・コミセンで何を実施するかということを決めるのは、非常に難しい。最初のきっかけとして、新しい行政の取り組みや、注目して欲しいことなど、市報と連動して期間限定で

行ってみてはどうか。

- ・そうする中で、長期的に取り組むべき内容が見えてくるのだろうと思う。

#### ■委員長

- ・掲示物や広報誌等を設置するニーズはあるだろうが、市民側のニーズを絞ってそこに焦点を当てていく努力は必要だろう。そうすれば、コミセンでも対応可能だろうと思う。そうすることで多様な人に立ち寄ってもらう工夫をした方が良い。
- ・市民が気軽に立ち寄るといった観点から、市民にとってあると便利なものがコミセンにあることのPRを行政が実施し、その対応を窓口で実施するといったような協力のあり方もあるのではないかと感じる。これまで行政は関わらないとされてきたために、そのあたりの支援が手薄になっていると感じる。こうした点を提言として入れてはどうだろうか。

#### ■副委員長

- ・委員長ご指摘の内容であれば、コミセンとしてもこれまでの業務の延長としてでき、さして大きな負担にはならないと思う。

#### ■委員

- ・ルートさえ開かれれば市民のニーズを挙げてもらうといったことはあって良いと思う。

#### ■委員

- ・市報は一度読むと捨ててしまいがちだが、後で読みたくなることがたまにある。それがコミセンに保管されていれば、見に来る人はいるだろう。地図もニーズが高いが、そういうものがあるということは意外と知られていない。
- ・市政センターでは、広い場所で多くの広報物を閲覧できる。市民にきてもらうためには、目玉になるものをPRする必要があると思う。

#### ■副委員長

- ・コミセンの大掃除をした際に、刊行物の整理をした。直近3年以内のもの以外は倉庫に入れ、それ以外は見出しをつけて見やすく整理したが、広報活動をしていないために市民の目に触れないことを残念に思う。やはり広報の必要性を感じる。

#### ■委員長

- ・市民にとって便利なものであるのだから、コミセンに設置することが重要であるということを確認した上で、広報していく必要がある。

#### ■委員

- ・刊行物の管理については、行政側もコミセン側も互いに無責任になっていた部分はあると思う。

#### ■委員

- ・例えば計画案を取りまとめた際などにコミセンで掲示するとして広報すれば、それを見に市民がコミセンにやってくることもあるのではないだろうか。

#### ■事務局

- ・既に計画策定等のプロセスでは、図書館やコミセンに掲示していることは市報で周知している。
- ・また、行政がコミセンを広報すればいいという意見が出ているが、市報のコミュニティ欄に行事やコラムを掲載している。行政としては最も力を入れているといっても過言ではなく、そうした状況を踏まえると、どう対応していくかを検討する必要がある。

■委員長

- ・将来的に何らかの行政サービスをコミセンに置くことは想定しているのだろうか。例えば、自動交付機をコミセンに置くということはないのか。

■事務局

- ・自動交付機については利便性の高い駅至近に設置するという考え方で、三鷹駅周辺、武蔵境駅はイトーヨーカドー、吉祥寺駅は商工会館等に設置している。

■委員

- ・今の意見を聞いても行政側は広報の必要があるといいつつも、コミセンの活用を具体的には考えていない。

■事務局

- ・行政の縦割りという話がよく出るが、コミセンを行政機能の代替としては長らく捉えてこなかったということだろう。

■委員長

- ・ここでの議論は、市民の来訪機会を高めるために、コミセンに行政サービスを置くことが必要というものであるので、そうした機能があっても良いのではないか。提言として、行政機能を置くことはあり得るだろう。

■委員

- ・具体的なものというよりは、市民が立ち寄れるような仕掛けをどう考えるかということだと思う。そういう意味では有害ごみ袋の配布は非常に取り組みやすいものだろうと思う。
- ・様々なアイデアを持ち寄り、行政側としても活用しやすいものをフォーラムで議論していけば良いのではないか。
- ・本格的に窓口機能に負担がかかるとなると良くないため、仕掛けとして窓口機能をどう展開していけるかを考えた方がお互いにやりやすくなるように思う。

■委員

- ・何かしら気軽に立ち寄るきっかけになるものがあればと思う。

■委員長

- ・施設の予約に際して、ネット上のオンラインシステムは導入されているのか。

■事務局

- ・文化施設等は導入されているが、コミセンは参照のみで予約はできない。

■委員長

- ・端末を入れるかどうかは別としても、そうしたことも含めて検討していくとして提言しておく方向性ではないか。
- ・また、外部評価について、最初の年に実施して以降は、何年かに一度実施している。

■委員

- ・自主三原則の基に実施しているので、外部評価として同じ物差しで評価することは難しいのではないだろうか。
- ・仕事として、サービス評価を実施した経験があり、幼稚園・特養等の評価を行ったが、型にはめられたものしか出てこない。具体的な視点がきっちり出てくれば良いが、難しいだろう。

#### ■副委員長

- ・どのように評価するかが問題で、外部評価自体がタブーということではないだろう。活動を客観化する上でも、外部評価は重要であると認識している。
- ・外部に指摘されたことが直ちにそれが正しいということではなく、第三者の目としての視点があって良いのではないかと思う。

#### ■委員

- ・介護保険等の場合は、税金や命に関わるため、厳しい評価が必要であるが、コミセンの場合は、外の視点を入れる必要があるということだろう。形骸化せずに数年に1回入れるという意味では良いのではないか。

#### ■事務局

- ・過去3回程度実施している。本来的には指定管理の5年間のうちに評価を実施するという考え方であると思う。

#### ■委員長

- ・提言としてあえて入れる内容でもないと思う。

#### ■副委員長

- ・外部評価は悪いだけのものではない。研連も含めて、仲間内だけの見方ではなく市民や行政・議会の目線を意識しながら活動を見直すという視点では、良いきっかけになると思う。
- ・そういう点で外部評価はあって良いが、それによってコミセンが右往左往したり、コミセンの取り組みが悪いといった捉え方をする必要はないと思う。

#### ■委員長

- ・「3.」「4.」まとめてご議論いただきたい。

#### ■委員

- ・コミセンとの連携のあり方について、マンション側にも責任があり、連携が非常に遅れていることは認めざるを得ず、是非今後進めていきたい。
- ・地域との連携は、マンションにとっても非常に重要である。マンションには建て替え時の問題があるが、その際地域との連携がうまくいっていないと、合意形成がスムーズにいかないことも多い。
- ・マンション側からの提案として、地域との交流会を行政に提案し実施したものの、その後中断しそのままになっていたが、地域防災計画の見直しや、消防法の改正で防災管理者を設置する必要があるなど、地域との連携を推し進めていくための追い風となっており、コミセンとの連携のきっかけにもなるのではないかと思っている。
- ・また、もう一つの追い風として、武蔵野市では、マンション生活継続計画が提言されており、ルネ吉祥寺等が先頭を切って取り組みを進めているところで、翌年一定の方針が示される予定である。これを受けて、地元のマンション管理士が支援できるかというところである。
- ・研連やコミュニティ協議会などで、そうした取組状況について周知していただくとともに、地域との交流会を是非応援していただきたいと思っている。

#### ■委員長

- ・マンション居住者にとっても、防災等の問題で行政や団体と連携を取る必要があり、そ

うした機会を通じてコミュニティ協議会との関係を模索していくことが求められるのだろう。

- ・地域と関わる必要性が高まる中で、協議会側が一方的に声をかけるだけではなく、マンションとしても様々な接点を通じて関係を模索していくということは、提言として入れて良いだろう。

#### ■副委員長

- ・コミセン運営者にはマンション居住者も多く、コミュニティ協議会としてはマンション住民とそれ以外の住民を分けるようなことはしていない。しかし、閉鎖的なマンションもあり、そのことが、災害時の避難や安否確認について、どう対応していくのかという課題になっている。マンションには独特のルールや仕組みがあるので、そこに対して働きかける際には少し工夫が必要と思っている。
- ・東京都の防災隣組の概念を踏まえ、武蔵野市でどのように取り組むかという話があるが、例えば、同一フロアの中で声がけをして隣組のような状態を組織する等の必要があり、それはマンションコミュニティの中で進めてもらう必要がある。また、市は在宅避難を進めている。その観点からコミセンもそれを支援する側となっているので、マンション住民にもより積極的に関わってもらうことが重要だろう。

#### ■委員長

- ・学校との関係について、コミセンの建て替え方針の中で、提言でそれも含めるかを検討する必要がある。区域の問題もあり、手狭なコミセンが空き校舎を分館として活用する等、併設もなくはない状況のようであるが、提言の中でどこまで言及した方が良いだろうか。

#### ■委員

- ・考えてもみなかったことである。学校には地域子ども館「あそべえ」も学童もある中で、コミセンがどのように関わっていくかはとても想像できない。

#### ■副委員長

- ・提言は可能だろうとは思いますが、学校側に地域コミュニティの一員であるという認識があるかどうかは、学校長のパーソナリティによるところが大きく、「学校＝コミュニティ」につながらない場合もある。コミュニティと距離を置いてきた学校が一緒になる場合、何ができるのかというところから検討せねばならず、具体的な関わり方が見えない中では、場所だけ併設するという内容を提言に含めることはやや違和感がある。

#### ■委員

- ・区域が違うところでは難しいと思うが、学校が地域の一員としてどう動いてくれるかというよりは地域の姿勢として学校や子どもをどう守るかという視点があっても良いと思う。
- ・田舎の学校では町の中心に学校があり、学校を中心として地域全体で子供を育てるということに重きが置かれ、双方に信頼関係がある。こうした関係を実現できると良く、そのためにも、コミセンとして学校や子供を支援するという位置づけで併設も含めて実験的にやってみることがあっても良いのではないかと思う。

#### ■委員

- ・学校がコミセンと一緒にコミュニティを考えることは良いことだと思う。最近学校が地

域懇談会として、コミセンや福祉の会等を集めた会議を開催することがあったが、その中で話すのは、子どもは学校でも家庭でも見せない顔を地域で見せてくれるという話である。それが、コミセンが学校に併設されてしまうと、子どもの立場からするとやりにくくなるのではないかと懸念する。

■副委員長

- ・委員ご指摘の通り、コミセンの併設が学校である必要性は別途検討すべきだと思う。学校と一緒にないと子どものケアができないかという点、そうではないだろう。

■委員長

- ・すでに活動が蓄積している地域では良いが、空白地域等で学校の建て替えに絡めて調整して、解決できることはないだろうか。

■委員

- ・コミセンから離れた地域に住んでおり、できることはあると思う。空白地域では、可能であれば設置してもらえの方がメリットは大きい。

■委員長

- ・形態はどうだろうか。分館なのか新設なのか。
- ・提言としては、学校との関係に配慮しつつ、コミセンの空白地帯をなくす等の工夫はすべき、その際小学校区に配慮するといった程度だろうか。

■事務局

- ・学校の建て替えについては将来的な議論であるので、30～50年の中でコミュニティと小学校区のずれをどう修正していくか、人口推計の資料をつけているが、長期的に見た場合の有効活用という視点でご検討いただきたい。

■委員長

- ・小学校区とうまく整理できることに越したことはないし、空白地域についても無くす方向で考えることが筋であるので、提言としてまとめることは可能だが、ただ単に併設の方向で整備していけば良いという議論にはならず、これまでの歴史や経緯と折り合いをつけながらということが必要なのだろう。

■委員

- ・子どもたち小さい頃から、身近にコミセンがあり、その役割を理解しながら成長していくことが武蔵野市の子どもたちにとって当たり前になってもらいたいと思って主張してきた。併設もその一つである。形態としてこの部分だけ持つてくるということではなく、委員会の中で、子どもがそれを当たり前のもので育ってほしいという内容は入れてほしい。

■委員

- ・行政区と学校区は全く異なる。行政区が学区に合わせるのが望ましいだろう。コミュニティは地域主体である。現状では問題を感じることは少ないが、行政区も変えていくことが必要ではないか。

■副委員長

- ・地域は人の集まりであるので、その中にコミセンがあることが望ましい。高齢者も若者も子供も一緒になって語らえる場所こそがコミュニティと思っており、それが学校と一緒にならなければならない理由はない。ただし、その方が便利になる場合や、空白解消

という問題解決になる場合には、検討すれば良いのだろう。

■委員長

- ・地域コミュニティと学校との関係を何らかの形でうまく育てていくということは、提言として記載できるのではと思う。

### 3. その他

#### (1) 今後のスケジュールについて

■事務局

- ・今後素案を作成し、第11回委員会でお諮りし、確定できるかというところになるだろう。必要に応じてもう1回開催したいと考えている。

■委員長

- ・21日までに最終文案を作成し、事前に委員に配布後、委員会で検討、修正という流れになるが、その修正の分量による。それが正副委員長で収まる範囲であれば委員会の開催は必要ないと思われる。

■事務局

- ・ご意見は承知したが、日程だけはここで確定しておきたい。

■委員長

- ・答申は11月中で良いというのであれば、11月11日(火)でご予定を仮置きしていただきたい。

■委員

- ・3コミセンで市議との意見交換を実施した。その結果について報告しているので参照いただきたい。

■事務局

- ・第9回議事要旨、パブコメ対応については今週末内でご意見をお願いしたい。

■委員長

- ・本日は長時間にわたりどうもありがとうございました。

### 4. 閉会